

地域活動を支える「力」がつく講座 - 学び方を学ぶ - 実施報告

【開催日時】 2009年2月2日（月）・16日（月）

第1日目（2/2）10：00～16：30

第2日目（2/16）10：00～15：30

【会場】 静岡市産学交流センター B-nest 小会議室1

【対象者】 地域活動を行っている人25名（参加者数20名）

静岡大学教育学部生涯学習教室と共催で、「地域活動を支える『力』がつく講座 - 学び方を学ぶ -」を静岡市産学交流センター B-nest にて実施しました。講座は、静岡大学公開講座の一環として行い、財団が2006年度より行ってきた「協働のための実践力養成セミナー」を参考に、活動を進め発展させていく力となる「活動のふり返し」を講座の中で体験しながら、活動の意味・課題を整理していくことをめざしました。全2回の講座は、活動のふり返しを「語る・聴く」形式で行う「ラウンドテーブル」を軸に構成しました。

第1日目は、「事例を聴く」を通して「語る・聴く」のイメージをつかみ、「講義」で実践をふり返ることについての基本的な考えを押さえた上で、多様な立場の人からなるグループで「語る・聴く」（ラウンドテーブル）を行いました。第1日目終了後には、「語る・聴く」の経験をふり返し、「書く」ことが宿題となりました。

第2日目は、午前中に、宿題で書いたことを基に課題や関心の近い人でグループを再編成し、「語る・聴く」を行いました（ラウンドテーブル）。さらに午後には、第1日目のグループに戻り、ラウンドテーブルの経験をふり返し感じたことを話し合いました（ラウンドテーブル）。

全体会では、今回の学びを持ち場（活動の場や職場）に帰ってどう生かしたいかをグループの中で報告し合いました。また、「語る・聴く」の経験を踏まえて、それぞれが活動のふり返しを書き直し、それらを集めて「学びのまとめ」としてまとめることになりました。「語る・聴く・書く」を組み合わせることで、実践の中で課題を見つけ、確認し、次につなげるというステップが具体化されたようでした。

ふり返しシートやアンケートによると、今回の学びについては、「活動をふり返し、書いて、語って、聴いたということの体験は、私の活動の大きな支柱になるのではと確信しました」「今まで人に話しても理解してもらえないと思い込んでいたことを今回話してみて、新たな発見、次に続いていくであろうと思えることを感じました」など、活動をふり返った体験が次のステップに向けた言葉として記されました。また、今後に向けた意見として、「メンバー間で語る・聴くをやって、団体内の課題を明確にしていきたい」「職員研修では、一方的に聴く形式が多い中、自ら“語り”、それに対して客観的にふり返し、それをこれからどうつなげるかという作業は、事業を組み立てる工程で大切な作業であることを感じました。職員研修に提案したい内容でした」などの声が寄せられました。



第1日目 -

1. 事例を聴く

地域で5団体を組織し、行政や学校と連携しながら活動している「W.D.西河内」の実践報告を、活動代表者の望月公美子さんから聴きました。望月さんは、「ふり返り」を重ねることで、「実践の中で大切にしているものに気づくことができた」「ふり返りの場がある安心感から、目の前の実践に専念しようと思えるようになった」と語りました。午後の「語る・聴く」のイメージを膨らませたり、「聴き方」にも注目する時間となりました。

2. 講義

入江直子さんの講義では「ふり返りで、自分が何をしてきたかがわかる。実践の筋がはっきりすると、次をどうするかを考えることができる」「過去をふり返る意味は、現在の自分の位置を確認し、未来を見定めることである」という言葉から、「実践のふり返り」について確認することができました。またラウンドテーブルに向けて、「語る・聴くは互いの相互作用が必要だから、意識した場にしたい」というメッセージが伝えられました。

3. ラウンドテーブル

5グループ(4~5人が1グループ)に分かれ、語る・聴くを実際に体験しました。「語る人が話しやすいように、その人のストーリーに沿って聴くこと」「各自の時間を平等に確保すること」を留意して行われました(各人語り10分・意見交換5分)。

宿題

1日目のラウンドテーブルで体験した「語る・聴く」を基に、自分の活動をふり返り、A4 2枚程度で「書く」宿題が出されました。

第2日目 -

4. ラウンドテーブル

課題や関心の近い人でグループが再編成され、宿題でまとめたものを基にしながら、「語る・聴く」が行われました(各人語り15分・意見交換10分)。「書く」ことを経た上での語りは、課題が明確になったものであり、関心の近さからやりとりも活発に行われました。

5. ラウンドテーブル

第1日目のグループに戻り、ラウンドテーブルの「語る・聴く」の経験を通して気がついたこと・感じたことを報告し合いました。最初のグループに戻ってきた安心感もあり、笑顔で経験を報告し合う姿が見られました。

6. 全体会

講座の学びを自分の持ち場(活動の場や職場)に帰ってどう生かしたいかを報告し合いました。「語る・聴くを仲間とまずやってみようと思う」と、次への一步を踏み出す言葉が語られました。学習支援者からも、それぞれメッセージが送られました。

< 講座の様子が静岡新聞に掲載されました > (2009年2月17日朝刊)

地域活動支えるこつ伝授

葵区で
講座 対人関係、運営の相談も

「地域活動を支える力が
がつく講座」(静岡大教
育学部生涯学習教室主
催)が十六日、静岡市葵
区の市産学交流センター
で開かれた。同市内を中

心に、町内会や子供会、
サークルなどで活動する
二十人が五グループに分
かれて、日ごろの活動内
容を発表した。

同学部の渋江かさね准
教授らが各グループの
「指導者」になり、活動を

円滑に進めるために必要
なコミュニケーション技
術などを紹介した。

参加者が対人関係や団
体運営についての悩みを
相談すると、指導者は必
ずしも気の合う人ばかり
ではないが、意見をぶつ
け合ってお互いをよく知
るべきなどとアドバイス
した。



活動を紹介します、悩みを相談する参加者
—静岡市葵区の市産学交流センター

プログラム

【第1日目】(2/2 10:00~16:30)

1. 事例を聴く：地域コミュニティ「W.D.西河内」の活動をふり返る
(語り手：望月公美子 聴き手：入江直子)
2. 講義：組織の学びと実践のふり返り (講師：入江直子)
3. ラウンドテーブル
(1)自分の活動を語る・聴く
(2)「語る・聴く」をふり返る

宿題：ラウンドテーブル をふり返りまとめる

【第2日目】(2/16 10:00~15:30)

1. ラウンドテーブル
課題や関心をもとに再編成したグループで「語る・聴く」
 2. ラウンドテーブル
第1日目のグループに戻り、ラウンドテーブル の「語る・聴く」をふり返る
 3. 全体会
今後に向けてグループで報告し合う・学習支援者からのコメント
- 学びのまとめ：講座での学びの経験を基に、活動のふり返りを書き直してまとめる

学習支援者

- 渋江 かさね (静岡大学准教授)
 入江 直子 (神奈川大学人間科学部教授)
 望月 公美子 (地域コミュニティ「W.D.西河内」代表) *1日目事例報告者 W.D.=Wonderful Discover
 石塚 淳子 (聖隷クリストファー大学看護学部講師)
 佐藤 道子 (聖隷クリストファー大学看護学部講師)
 福家 なおみ (本財団学習事業課長)
 池田 和嘉子 (本財団学習事業課員)